

第4回 フレンドシップコンサート

～市川交響楽団メンバーが贈る「弦楽の調べ」～

2019年3月2日(土)

開演 15:00 (開場: 14:30)

山崎製パン総合クリエイションセンター内
飯島藤十郎社主記念LCCホール

指揮: 三原 明人

演奏: 市川交響楽団 弦楽器セクション

主催: 市川交響楽団協会

協賛: 山崎製パン総合クリエイションセンター

協力: 山崎製パン株式会社

◆ご挨拶◆

本日は「第4回フレンドシップコンサート」にご来場いただきありがとうございます。
山崎製パン株式会社様は、「山崎製パン総合クリエイションセンター」を平成28年12月1日に竣工されました。そして併設された飯島藤十郎社主記念LSCホールは、地元市川市民の様々な文化活動や、社会の進展と文化の向上に寄与する場としてご提供頂けることとなりました。本演奏会の開催にあたりまして、山崎製パン株式会社様、関係者各位の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

本日はオーケストラの要となる弦楽器による合奏をお聴き頂きます。
弦楽四重奏曲からバッハ協奏曲作品、参加メンバー全員による弦楽合奏曲など様々な曲目を選びました。
また、ご来場の皆様楽しんでいただけるサプライズ企画も用意しております。
春3月まだ寒い日もありますが、土曜日の午後に音響の素晴らしいこのホールでゆったりとフレンドシップコンサートをご鑑賞ください。

市川交響楽団協会 理事長 時田 雄

◆本日のプログラム◆

◇ W.A.モーツァルト / 弦楽四重奏曲 第15番 二短調 K421 第1楽章

◇ J.S.バッハ (野平 一郎 編曲) / シャコンヌ

◇ L.v. ベートーヴェン / 弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 Op.132 第1楽章

◇ J.ブラームス / 弦楽六重奏曲 第1番 変ロ長調 Op.18. 第1楽章

◇ H. ヴォルフ / イタリア風セレナーデ ト長調

..... 休憩

◇ J.S.バッハ / 2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV1043
I : Vivace II : Largo ma non tanto III : Allegro

◇ A.ドヴォルザーク / 弦楽セレナーデ ホ長調 Op.22
I : Moderato II : Tempo di valse III : Scherzo; Vivace
IV : Larghetto V : Finale; Allegro vivace

◆お願い◆

皆様に最後まで演奏会を楽しんで頂くために次の点にご協力くださるようお願いいたします。

- ♪ 携帯電話は電源を切るかマナーモードに設定してください。
- ♪ 演奏中にお子様落ち着きがなくなった場合は一度ロビーに出られて様子を見て再入場されるようお願い致します。
- ♪ ロビー以外でのご飲食はお控えください。
- ♪ 客席、ロビー以外は立ち入りができません。
終演後は出演者がロビーに移動いたしますので面会はこちらをお願い致します。

◆曲目のご紹介◆

W.A.モーツァルト／弦楽四重奏曲 第15番 二短調 K421 第1楽章

Vn1 : 秦 一宜 Vn2 : 細貝 春 Va : 谷口 善樹 Vc : 後藤 庸一

モーツァルトは弦楽四重奏曲を全23曲残しており、今回演奏する第15番は、第14番から19番まで続く「ハイドン四重奏曲」のひとつで、1783年に作曲されました。この第15番、このシリーズの中では唯一短調の曲であります。

第1楽章は、冒頭の悲しくもせつない第一主題、これが2オクターブにもわたって悲痛な叫びをあげます。

やがて、幸せだった時代を懐かしむような第二主題が現れます。

プログラムの最初の曲にしては少し暗いかもしれませんが、異彩の放つこの名曲をお楽しみ下さい。

J.S.バッハ (野平 一郎 編曲)／シャコンヌ

Va1 : 葉山 香里 Va2 : 本郷 尚子 Va3 : 園田 陽子 Va4 : 内田 綾美

J.S.バッハの無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番のシャコンヌは、言わずと知れた名曲です。

今回演奏する<シャコンヌ>は、「ヴィオラスペース2000」の委嘱により野平一郎氏が4つのヴィオラのために編曲された曲です。

4本のヴィオラで<シャコンヌ>の旋律を代わる代わる奏でていきます。

その旋律をあたかも一人で弾いているかのような演奏ができるでしょうか。

ヴァイオリンとは違ったヴィオラの音色をお楽しみください。

L.v.ベートーヴェン／弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 Op.132 第1楽章

V n 1 : 大橋 一郎 V n 2 : 渡辺 綱介 V a : 大橋 かおる V c : 福原 耕二

かの有名な第九交響曲。その初演から1827年に世を去るまでの3年足らずの間に、ベートーヴェンは弦楽四重奏曲を4つ（もともと第13番の終楽章として書かれた大フーガを含めると5つ）残しています。これはそのうちのひとつ。

作曲中、体の不調を乗り越えたベートーヴェンは、4楽章構成を予定していたこの曲に「病から癒えし者の神なるものへの聖なる感謝の歌」と題する第3楽章を挿入、深く人々の心に響く全5楽章の傑作を世に生み落としました。

喜びと哀しみ、幸福と孤独、憧れと諦め…。その音楽を耳にすれば、ベートーヴェンを受さずにはいられないのでは。本日はその冒頭、第1楽章をお届けします。

J.ブラームス／弦楽大重奏曲 第1番 変ロ長調 Op.18 第1楽章

V n 1 : 早川 貴子 V n 2 : 溝田 範子 V a 1 : 園田 陽子 V a 2 : 本郷 尚子
V c 1 : 倉澤 倫子 V c 2 : 平得 裕子

24歳で宮廷の音楽教師という非常に優遇された定職につきましたが、わずか3年でその職を退きました。

ちょうどその時期約1年かけて1860年27歳の年に完成したこの曲は、いかにも若々しく情熱的な曲風であり、重厚な響きを好んだブラームスはこの曲で厚みのある響きや陰影豊かな叙情性を表現することに成功しています。

もしかすると、アガーテとの別離と、クララへの想いが再燃した心情も込められているのでは？と思わずにはいられません。

H.ヴォルフ／イタリア風セレナーデ ト長調

V n 1 : 立田 祥子 V n 2 : 三原 明人 V a : 内田 綾美 V c : 福原 耕二

この底抜けに明るいイタリアの空のような曲を書いた彼は、意外にも2年でウィーン市立音楽院を退学させられ、21回も引っ越し、10年ほどの作曲活動の後精神を病み、わずか43才で亡くなりました。

「冬の旅」を思わせる歌曲などの作品のイメージとはかけ離れた人物のようです。

そして、ワグナーを尊敬しブラームスには批判的でした。このセレナーデはたった7分の中にトリッキーな仕掛けが随所にあり、なかなか手強い曲です。

本日は三原先生の共演を得て 爽やかな風が吹き抜けるように演奏したいものです。

J.S.バッハ／2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV1043

V n Solo 1 : 三原 明人 V n Solo 2 : 立田 祥子

バレエ : すみれバレエ団

V n 1 : 武藤 敦子 石本 恵理
V n 2 : 佐藤 薫 岩田 徳子
V a : 谷口 善樹 奈良林 弘子
V c : 中元 悦治
C b : 小林 真弓
C e m : 山内 静

「ドッペルコンチェルト」として広く親しまれているこの曲は、
2台のソロバイオリンの模倣による 対話が全体にわたり繰り広げられています。
厳格な雰囲気漂う重厚な第1楽章、ソロバイオリンによる優美な旋律の掛け合いが美しい
第2楽章と続き、第3楽章はソロと合奏部が緻密に絡み合い、
緊迫感溢れる展開となります。
本日はソロバイオリンとして三原先生をお迎えし、さらにはバレエとの珍しい共演もお楽しみいただければ幸いです。

【フレンドシップコンサート バレエ出演者】

振付 : 荒木 さゆり
指導 : 荒木 洋子 荒木 さゆり
出演 : すみれバレエクラシック
荒木 さゆり
瀧川 莉彩 橘田 花音
友井 雫 青柳 美乃 朝倉 萌夏 高橋 香瑛 関口 颯花



A.ドヴォルザーク/弦楽セレナーデ 木長調 Op.22

Conductor : 三原 明人

Concert mistress : 立田 祥子

V n 1 : 大橋 一郎 金田 みどり 佐藤 薫 早川 貴子 溝田 範子
山本 芳功 渡辺 綱介

V n 2 : 石本 恵理 岩田 徳子 皆合 愛子 秦 一宜 服部 恵子
細貝 春 武藤 敦子

V a : 内田 綾美 大橋 かおる 園田 陽子 谷口 善樹 奈良林 弘子
葉山 香里 星 乗昭 本郷 尚子

V c : 倉澤 倫子 後藤 庸一 中元 悦治 福原 耕二 平得 裕子

C b : 小林 真弓 高間 友明

某人材派遣会社のCMで有名になったチャイコフスキーの弦セレと「2大弦楽セレナーデ」として人気の高いこの作品は、出だしの派手さでは勝てないけれど、旋律の美しさや味わい深さでは負けていません。

33歳の時の公私ともに充実していた時期に11日間で一気に書き上げた作品だそうですが、いざ演奏するとなると各パートに数々の難所があり、それを乗り越え、本日を迎えました。
皆様にこの幸福に満ちた音楽が届きますように。



◆出演者のご紹介◆

三原明人 (みはら あきひと)



東京生まれ。ヴァイオリン、ピアノ、作曲を始め、東京芸術大学音楽学部器楽科でヴィオラを専攻。ヴィオラを浅妻文樹、兎東俊之の各氏、室内楽をスメタナ弦楽四重奏団、アレクサンダー・シュナイダー、ルイ・グレーラーの各氏に師事。その後、桐朋学園大学とウィーン国立音楽大学で指揮法を学ぶ。小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、カール・エステルライヒャー各氏に師事、またシエナでゲンナジ・ロジェストヴェンスキー、アッシジでモーシェ・アツモン、ハレでヘリベルト・バイセル各氏に師事。1989年オランダで行われたキリル・コンドラシン国際指揮者コンクールで第2位入賞し、オランダ放送フィルでチャイコフスキーの悲愴交響曲を指揮してアムステルダムにてデビュー。1996年ポルトガルで行われたリスボン国際指揮者コンクールで第3位入賞(1位なし)。1993年ドイツのハレで行われた若手指揮者養成のためのDIRIGENTEN FORUMにて最優秀ファイナリストとなる。ウィーンフィルでレナード・バーン

スタインのアシスタント、ベルリンフィルでクラウディオ・アバドのアシスタント、また日本で外山雄三、広上淳一各氏のアシスタントを務め、ヨーロッパと日本を中心に各地のオーケストラを指揮して活躍中。現在は東京音楽大学指揮科非常勤講師として後進の育成にも努めており、またサイトウ・キネン・オーケストラ・メンバーでもあった経験を活かしヴィオラ奏者としての演奏機会も多く、大変ユニークな活動を展開している。

市川交響楽団



2016年に創立65周年を迎えたアマチュアとしては全国有数の伝統を持つオーケストラ。メンバーは現在100余名で年齢構成は高校生から70代までの幅広い層に当たり、職業も会社員、教員、主婦など多彩。地元市川市での演奏会を中心に全国各地の文化行事やオーケストラ・フェスティバル等にもしばしば招かれ演奏を披露している。著名な音楽家との共演も数多く経験しているほか、特に地元ゆかり

の音楽家との共演にも力を注ぎ、地域の音楽芸術の振興に多大な貢献をしている。市川交響楽団は市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、行徳混声合唱団、市響ジュニアオーケストラの各団体とで構成する市川交響楽団協会の中核として「クラシック音楽をより多くに市民に楽しんでもらう」をモットーに常に積極的な活動を展開している。

すみれバレエクラシック



1969年市川市中国分にてスタジオ開設
自主公演の他、市川市洋舞踊協会、千葉県芸術舞踊協会、市川市芸術文化団体協議会の主催事業に毎年参加
また、オペラ公演のバレエシーン、市川交響楽団の演奏会、舞踊コンクールなどに多数出演参加をしている

[HP] www.sumire-ballet.net/

[Instagram] [sumire_ballet_classic](https://www.instagram.com/sumire_ballet_classic)



今後の演奏会のご案内

♪ 第406回「市響ジュニア第44回定期演奏会」

2019年5月5日（日）

シベリウス／交響曲第1番

他

指揮：山崎 滋

♪ 第407回 市響「交響楽の午後」

2019年7月7日（日）

ベートーヴェン／ピアノ、ヴァイオリン、チェロのための協奏曲

ブルックナー／交響曲第5番 変ロ長調(ノヴァーク版)

他

指揮：三原 明人

* すべて入場無料で開催いたします。